

# JAEF REPORT

令和4年4月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

## 【目次】

- ◆ 第26回理事会を開催、令和4年度事業計画・予算を承認
- ◆ 令和3年度講師派遣実績
- ◆ 令和4年度「自動車技術」に関する講師派遣 募集開始

- ◆ 自動車教育用教材 汎用エンジン 解説動画を制作・公開
- ◆ “「公共」副教材2022”が完成、ウェブで公開
- ◆ 動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」に13本のコンテンツ掲載

## 第26回理事会を開催、令和4年度事業計画・予算を承認

…3月16日

[財団運営](#)

財団は、3月16日に芝パークホテルにて第26回理事会を開催した。同理事会では令和3年度の事業進捗状況が報告されると共に、令和4年度の事業計画・収支予算案等が承認された。

令和4年度の事業にあたり、昨今の事業環境を踏まえ、財団として以下の取り組みを重点的に行うこととする。

### 【財団事業を取り巻く環境】

- 若者の「クルマファン」作りの必要性
- 自動車教育担当教員の高齢化・人員減少に伴う教員支援強化
- 教育現場でのICT化進展に伴うデジタル教材の必要性

### 【重点取り組み事項】

- 1. 分解組立実習の支援、最新技術に関する情報発信強化**
  - ・財団職員によるPIUS特別講習（分解組立指導）実施（R3～）
  - ・汎用EG分解組立動画作成（R3）、視聴覚教材DVDの刷新（R4～）
- 2. 先生、高校生を対象とした動画サイトの構築**
  - ・『早わかり！クルマ塾』のコンテンツ配信（R2～）
- 3. 財団情報の利用促進強化**
  - ・教科/テーマに沿ったHP/支援メニュー等の改修（R4～）
  - ・教科別教員団体、教育関係メディアとの連携強化（R3～）

事業ごとにみえていくと、技術教育支援事業では、令和4年度は新型コロナ感染の影響は薄れ、教材提供など従来活動も回復するとともに、令和3年度に開始したPIUS特別講習など引き続き推進していく。また、基礎教材であるDVD教材の刷新に取り組んでいく。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度（計画）
自動車教育用教材提供	○ 14都道府県91校に提供	○ 15府県102校に提供	○ 18県95校に提供
交流促進（贈呈式、教育懇談会）	× コロナ禍で中止	△ コロナ禍で3県のみ実施	○ 全18県で規模縮小し実施
高校生イベントへの助成	× コロナ禍で中止	× コロナ禍で中止	○ 従前通り助成実施
PIUS特別講習（分解組立式小型EV）	—	○ 計画通り6校実施	○ 10校での実施
動画による教員支援	—	○ 汎用EG分組動画作成	○ DVD教材の刷新（R4、R5年度）

「○」はコロナ禍の影響なく実施、「△」はコロナ禍で規模縮小、「×」はコロナ禍で中止

研修事業では、オンライン講習を活用しつつ、コロナ禍前レベルの活動への復帰を見込む。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教員研修会（JAEF研修会）	△ コロナ禍で1回のみ実施 ・「自動車会館」にて自 転車の安全利用研修を開 催 ・「ツインリンクもて ぎ」での交通安全実習は 中止	△ コロナ禍で1回のみ実施 ・「ツインリンクもて ぎ」にて交通安全実習 を開催 ・「トヨタ会館」での燃 料電池車の集合研修は 中止→動画提供へ	○ 従前通り4回実施
講師派遣	△ コロナ禍で213件実施 （参加者6.2万人）	△ コロナ禍で283件実施 （参加者8.8万人） ○ オンライン講習の本格 展開	○ 従前並の320件実施 （参加者9.8万人） ○ オンライン講習の定 着

調査研究・普及啓発事業では、動画学習サイトのコンテンツ充実には引き続き注力するとともに、副教材のデジタル化、HPなどの改修による財団情報のアクセシビリティ向上に取り組む。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
調査活動	△ 国内調査2回実施 × 海外調査中止	○ 国内調査3回実施 × 海外調査中止 ○ クルマに対する高校生の 意識調査実施	○ 国内調査3回実施 △ 海外調査1回実施
副教材作成	○ 「公共」副教材作成	○ 「公共」副教材改訂	○ 既存副教材デジタル化
動画学習サイト	○ 動画教材21本作成	○ 動画教材26本作成	○ 動画教材26本程度作成
広報活動	○ ツイッター開始 ○ 教育関連メディアとの関 係構築	○ HPや支援メニュー改修 ・教科/テーマごとに改 編	

若者の「クルマファン」作りに向け、引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。



▲第26回理事会の様子

## INFORMATION

4～6月予定

- 理事会、評議員会を開催 5、6月
- 令和4年度JAEF研修会参加者募集開始 5月下旬
- 令和4年度自動車技術教育用教材提供の公募開始 6月上旬
- 令和4年度講師派遣を実施 4月～6月

## 令和3年度講師派遣実績

研修

令和3年度の講師派遣実績は、開催件数282件（前年差+69件）、参加者88,381名（同+26,715名）となった。コロナ禍の影響が続く中、令和3年度より「交通安全」「環境・交通技術」にて本格的に展開したオンライン形式の研修会の併用、利用促進が奏功し、キャンセルを85件（同▲107件）と大幅に抑制することができた。

全282件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 交通安全	251	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
2) 環境・交通技術	7	
3) 自動車技術	24	主に工業系の生徒

研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

### 1) 交通安全：計251件

ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	170
自転車を取り巻くリスクとその責任	45
夜間の交通安全対策	28
交通事故を起こして問われる責任自動車技術	7
二輪車（バイク）の交通安全	1

当分野でのオンライン研修の高評価率（※）は94%と、全体平均の92%を上回った。講師の方が研修前に各校のニーズを把握し、事前に撮影した登校風景や学校周辺の危険箇所を用いて関心を高める工夫を行うなど、対面同様の研修効果が得られるようご尽力いただいたことによるものである。

※高評価率：実施報告書で5段階評価中「大変良かった」「良かった」の合計

### 2) 環境・交通技術：7件

地球温暖化防止と自動車技術	5
交通技術と社会のあり方(自動運転技術の現状と方向性)	1
交通技術と社会のあり方(自動運転と紛争解決)	1

### 3) 自動車技術：計24件

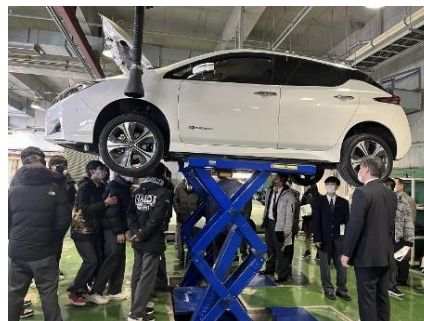
最新技術：生徒対象	23
内) 電動車関連メニュー	20
整備技術：教員対象	1

当分野では参加した生徒が最新技術を搭載した実車に触れると共に、現場で整備業に携わる講師ならではの話で熱心に聴き入るなど、自動車に対する興味関心がさらに深化した。

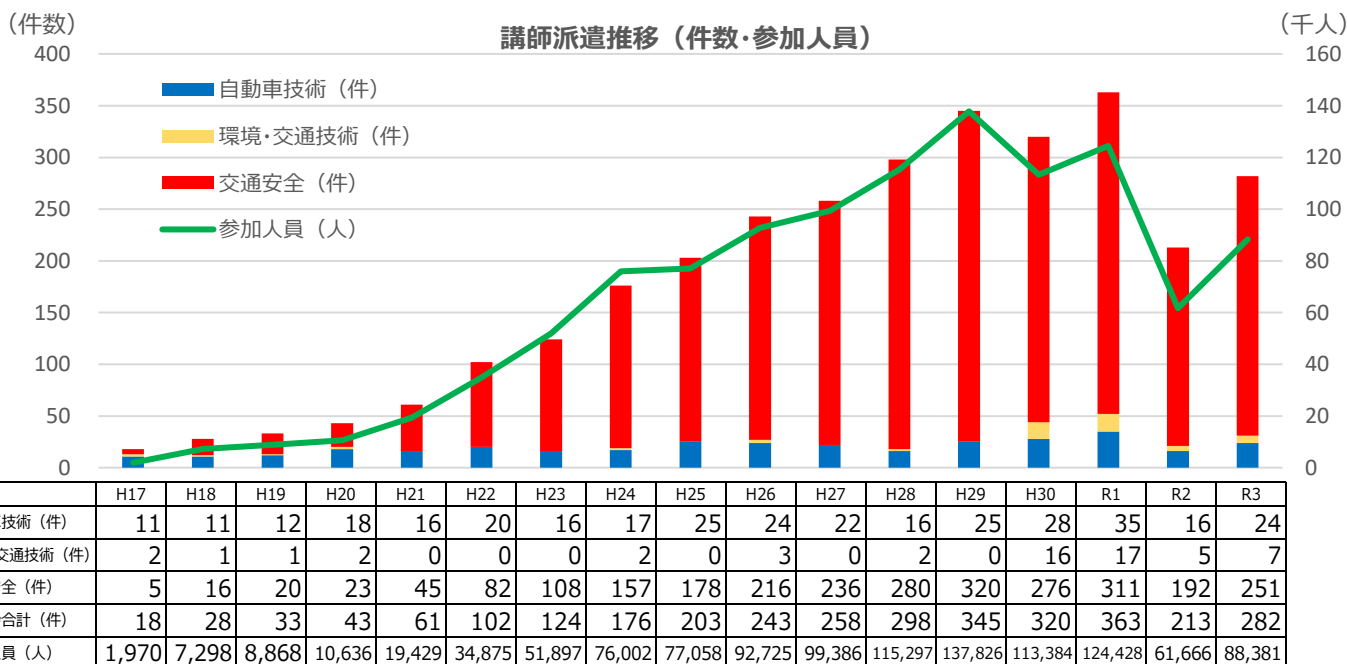
講師については、全282件のうち、275件を地元の自動車教育推進協議会メンバーに担当いただいた。講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。



▲徳島県立阿南光高等学校での講師派遣の様子



▲東京都立六郷工科高等学校での講師派遣の様子



## 令和4年度「自動車技術」に関する講師派遣 募集開始

・・・ 3月1日

技術教育

財団は、令和4年度「自動車技術」に関する講師派遣（下表内8メニュー）の募集を3月1日より開始した。

併せて同日、令和3年度に財団創立30周年記念事業として開始した「PIUS（分解組立式小型電気自動車）特別講習」についても令和4年度の募集を開始した。

### 1) 「自動車技術」講師派遣メニュー

メニュー	
〔講演型〕 最新技術	① トヨタ・ハイブリッド車について
	② 日産・電気自動車について
	③ ホンダ・e:HEVについて
	④ マツダの電動化技術について（7月開始） ※6月まで：マツダ・SKYACTIVエンジンについて
	⑤ 三菱自動車・プラグインハイブリッド車について
〔体験型〕 整備技術	⑥ ガソリンエンジンの分解・組立
	⑦ トランスミッションの分解・組立
	⑧ 電子制御エンジンの構造と点検・整備



▲ 令和3年度 最新技術 講師派遣の様子

\* 「交通安全」「環境・交通技術」に関する講師派遣は、令和3年12月より募集開始済

### 2) PIUS特別講習

本講習は、財団より専任講師を派遣。PIUSの分解・組立を通して、工具の使い方や車両の構成や部品の機能の理解を深めるとともに、自分たちで組み立てた車両の試乗確認まで行うことにより、達成感を得られる内容となっている。今年度は計10回の開催を予定（前年度実績：6回）。

<令和3年度実施校 担当教諭の主な評価・感想>

- ・分解組立の作業実習を目的に製作されたキットカーだけに、実車に近い作業を体験出来た。初心者には難しい用語や作業内容もあるが、完成・試乗した時の生徒の表情は、達成感に満ちていた。
- ・基本的構造の理解だけでなく工具や部品の置き場所の明確化や作業手順と作業進捗状況の見える化など、工数削減改善活動の原点は5Sの徹底であり、同時に作業リスクを低減させることができると改めて実感できた。



▲ 令和3年度 PIUS特別講習の様子

## 自動車教育用教材 汎用エンジン 解説動画を制作・公開

・・・ 3月2日

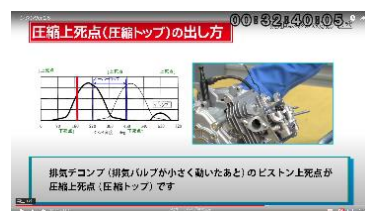
技術教育

財団では、自動車教育用教材メニューで毎年最も応募校数が多い「分解組立用エンジン<汎用126cc>」の分解・組立工程を解説する動画を制作し、財団ホームページにて公開した。実習等で生徒が当エンジンの分解・組立方法を学ぶにあたり、担当の先生方よりそのサポートになるような動画を求める数多のご要望にお応えしたものである。

当解説動画は「分解編（22分）」、「組立編（25分）」の2本で構成。分解・組立実習の経験が少ない先生にもイメージしやすいように作業手順、使用工具、注意事項を随所に盛り込んだ。授業において生徒が分解・組立作業前に視聴することで、作業をスムーズに進行させることができる内容となっている。



▲ 分解組立用エンジン<汎用126cc>



▲ 解説動画より



## “「公共」副教材2022”が完成、ウェブで公開

・・・ 1月7日

調査研究

財団はこの4月より公民科の必修科目となる「公共」用に制作した、“「公共」副教材2022”を財団ホームページにて公開した。環境、交通インフラなど、現代社会において重要な6つの課題・テーマで、高校生にとって身近に感じられる事例を交えて構成している。主権者として自らどう考え、行動するかについて議論する材料としての活用を促している。

本副教材は、1年前に公開した“「公共」副教材2021”を基に、先生方に実施したインタビューやアンケートの結果を踏まえ、一部改訂を実施（情報・データ更新他）。先生向けのガイドと授業用ワークシートを別ファイルとし、授業及びその準備での使い易さの向上も図った。



## 動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」に13本のコンテンツ掲載

普及啓発

財団は動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にて、1月からの3か月間で合計13本のコンテンツを財団ホームページに掲載した。

四輪車の自動運転技術・二輪車の先進安全技術をテーマに9本、国内調査報告（電動キックボード）が2本、米国におけるクルマのネット販売、カーボンニュートラル社会に関し各1本を制作・公開した。

令和3年度は、当13本を含め合計26本のコンテンツを掲載した。本年度もコンテンツの充実により、自動車教育支援の更なる強化、クルマへの関心・理解向上を図っていく。

（以下、動画タイトルに続く < >は掲載日）。

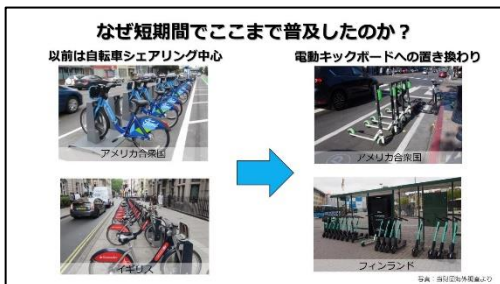
- 「自動運転技術を使いこなすためには？（乗る編 第1回）」<1/14>

\*当テーマでは本コンテンツを含む計3本を公開



- 「『電動キックボード』は日本で普及するか？【前編】欧米で広がりを見せる電動キックボード」<1/28>

\*当テーマは、「【後編】日本での普及可能性と課題」含む計2本で構成



- 「コロナ禍で加速 クルマもネットで買う時代に」<2/15>



- 「カーボンニュートラルと国民の負担」<3/9>



- 「二輪車の先進安全技術『ARAS』とは？（聴く編 第1回）」<3/15>

\*当テーマでは本コンテンツを含む計6本を公開

